

広島県空港振興協議会「空港経営改革推進委員会(第3回会議)」の開催結果について

1 概要

広島空港の経営改革を官民で進めるため広島県空港振興協議会に設置した空港経営改革推進委員会の第3回会議を次のとおり開催した。

2 会議内容

(1) 日 時

平成30年2月14日(水) 15:00～17:00

(2) 会 場

鯉城会館5階 501・502会議室(サテライトキャンパスひろしま内)

(3) 出席者

別紙名簿のとおり

(4) 主な内容(出席者からの主な意見は裏面のとおり)

将来目標について

空港経営改革を見据えた将来目標について、策定の意義を確認するとともに、政府の観光ビジョン(2030年訪日外国人旅行者数6000万人)等を念頭に置き、広島空港の利用率等に着目して議論を行った。

3 今後の予定

重点テーマ(将来目標及び空港アクセス)について、来年度以降も継続して整理していく。

《出席者からの主な意見》

(将来目標について)

- 将来目標の意義は、地域が運営権者とともに目指すビジョンを示すこと。国の目標に加えて、県の観光戦略やせとうちDMOなどの戦略も考慮しながら、地域としての「覚悟」を示す数字を提示しなければならないと思う。
- 観光やビジネスなど目的別にどのくらい需要を獲得するかということも考慮する必要があるのではないかと。路線の有無だけでなく運航頻度なども考えると、大規模空港に流出したビジネス需要を取り込むことは簡単ではないと思われるので、中四国の拠点空港というのは、特に観光の受入拠点としての役割が軸になってくると思う。
- 政府が進める「訪日外国人旅行客数 6000 万人」の実現を念頭に、インバウンドを地方に取り込んでいくために、中四国地方の中核空港として広島空港がどのくらいの規模を受け入れる必要があるかという視点が重要ではないか。
- インバウンド需要が拡大する中、羽田や成田あるいは福岡も発着容量が逼迫しており、将来的にはこれら大規模空港からあふれた需要をどこで受け入れるのかという状況になる。地方空港の役割は必然的に大きくなるが、その際に広島空港ではどれだけ受け入れていきたいかということも戦略的に位置づけて将来目標を設定する必要がある。
- 旅客だけでなく貨物についても将来目標を示す必要があるのではないかと。貨物は機材の小型化などの影響もあり旅客以上に厳しいが、例えば地域の特産品など需要の掘り起しの余地はあると思う。目標を設定して戦略的に取り組むことも必要ではないか。
- 将来目標について議論することも重要だが、広島空港を使うメリットや、広島に滞在してもらう楽しさなどを、より具体的に考えて取組を実行していくことも重要である。

空港経営改革推進委員会第3回会議 出席者名簿

日時：平成30年2月14日(水) 15:00～17:00
 場所：鯉城会館5階 501・502会議室
 (サテライトキャンパスひろしま内)

区分	所属・役職	氏名
委員長	広島商工会議所 副会頭	廣 田 亨
副委員長	広島県 土木建築局空港港湾部長	宮 津 智 文
委員	尾道商工会議所 会頭	福 井 弘
	広島県商工会連合会 専務理事	石 井 正 朗
	一般社団法人中国経済連合会 常務理事	谷 口 雅 彦
	広島経済同友会 代表幹事 (代理) 総務部会長	(池田 晃治) 前 田 昭
	広島県中小企業団体中央会 会長	伊 藤 學 人
	公益社団法人広島県バス協会 会長	椋 田 昌 夫
	広島空港ビルディング株式会社 代表取締役社長	山 本 健 一
	西日本旅客鉄道株式会社 広島支社 副支社長	飯 田 稔 督
	広島市 道路交通局長 (代理) 道路交通局 都市交通部長	(谷山 勝彦) 藤 田 昭 彦
	三原市 総務企画部長 (代理) 総務企画部 企画調整課 計画調整係長	里 村 学 岡 泰 彦
	東広島市 政策企画部長	西 村 克 也
	外部委員	関西外国語大学 教授
オブザーバー (県関係者)	広島県 環境県民局自然環境課長	秋 田 修
	広島県 商工労働局観光課参事	栗 根 麻 衣 子
	広島県 土木建築局土木整備部長	蒲 原 幹 生
事務局	広島県 土木建築局空港振興課長	黒 川 幸 雄
	広島県 土木建築局空港振興課 空港経営改革担当監	寺 田 清 明
	広島県 土木建築局空港振興課 主幹	天 川 充 弘
	広島県 土木建築局空港振興課 主幹	増 田 朝 子
	広島県 土木建築局空港振興課 主査	綿 井 秀 明
	広島県 土木建築局空港振興課 主査	新 田 雅 崇
	広島県 土木建築局空港振興課 主事	山 内 亮